

大阪市大家政 ○北浦かほる
中野 迪代

(1)住空間計画を行う際、比較的初期の家族周期においては、子供、特に幼児の場合の住空間における“位置”が問題になってくる。そこで、住宅において、母親と末子(学令以下のもの)に関して、その接触が如何になされているかを時間的、空間的に検討してみた。

(2)接触時間：久米田のテラスハウスと千里の3DKアパートの居住者を比較すると、テラスハウスの方が全体的に接触時間が長くなっている。これは平面構成上の制約から必然的に生じて来たと考えられる。年令ランク別では、bランクの子供が最も接触時間が長い傾向にある。兄弟数による影響はcランクにおいて著しく、兄弟数に反比例している。同居人についても同様で、どのランクにおいてもあらわれている。

(3)室空間と行為別接触の頻度

睡眠はcランクで減少の傾向にあり、室空間との関連をみても就寝分離の芽ばえがみられる。昼寝は年令的にもbランク中心となる。食事に関しては、aランクは授乳中心なので、除外して考えると、①室中心に高い接触率を示している。外出に関しても、bランクの接触が高くなっている。

(4)遊びにおける接触

各ランクとも②室で接触率が最も高く、次いで、戸外、①室となっている。“時々接触”の行われる室は②室を中心とした複数室で、bランクにおいて、それが顕著である。